

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月22日

【評価実施概要】

事業所番号	1275700043
法人名	有限会社いなりやホームサービスセンター
事業所名	グループホームつくし
所在地	〒289-3181 千葉県匝瑳市野手17146-2317 (電話) 0479-67-1555

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4 千葉県労働者福祉センター5階
訪問調査日	平成20年12月22日
評価確定日	平成21年2月15日

【情報提供票より】(平成20年11月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年9月1日
ユニット数	1 ユニット
利用者定員数計	9 人
職員数	11 人
	常勤専任8人 常勤兼務1人 非常勤2人 常勤換算6.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造亜鉛鉄板葺き平屋 1階建ての 1階 ~ 1階 部分
------	--------------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費15,000円, 理美容代3,500~4,000円, おむつ代1,500円程度	
敷金	無し	有りの場合償却の有無		
保証金の有無(入居一時金含む)	無し			
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87 歳	最低	84 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	はしば医院 藤田病院 九十九里ホーム病院 高橋歯科医院
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

九十九里浜の海岸線からほど近い歴史ある民宿「いなりや」は、新たにグループホームとして生まれ変わった。法人代表者と現任の管理者がともに作り上げた理念「各自がその人らしい暮らしができ、当グループホームが地域社会の一員として自立し、融合する」は、入居者の尊厳と事業所の自立性を重視している。全ての職員が一丸となって理念の実現に向けて日々邁進している。特に日々の支援では経験豊富な看護師の管理者が、毎朝の体操、風船バレーや書道等を行い身体機能の低下防止に努めている。日々のバイタルチェックは的確に行われ、入居者別の記録も確実に残されている。職員間での情報の共有もなされており、入居者の小さな変化を捉えらた処置が時宜を得ている。ホーム内は管理が行き届いており清潔感がある。入居者の手作りのクリスマスの飾りや、書道の作品等が掲示され、家庭的な温もりを感じさせる。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の改善課題は職員会議で協議し、それぞれへの改善計画を作成し対応されている。また、運営推進会議でも評価結果を報告し必要な助言を受けるなど、効果的な取り組みとなっている。特に「職員を育てる仕組み」については、年間研修計画に基づき職員の力量に応じた研修が実施され、職場内研修では入居者のADL低下、重度化に合わせて、働きながら適時実施されている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価に全職員で取り組むことにより、地域密着型サービスの意義や目的を共有し、職員の共通認識を図る良い機会と捉えている。また、評価結果はサービスを向上させるためよい契機とし、入居者がより快適に暮らせるよう活かし、サービスの質の向上に努めている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議では、行政職員、地域区長、民生委員、交番警察官、入居者家族、ホーム関係者等を構成メンバーとし、4ヶ月に1回の頻度で開催している。定期的に入居者の状況や行事などの報告を行い、今後取り組んでいきたい事項や外部評価の結果等について協議を図り、サービスの向上に繋がるよう努めている。会議の構成メンバー間での日程調整に苦慮しているが、出来る限り多くの参画を得て、有意義な会議にすることが期待される。
重点項目	かい
	苦情受付窓口をホームの内部と外部に設置し、重要事項説明書にその旨を明記している。また、事業所内にも合わせて掲示し、周知を図っている。寄せられた苦情や不安へは、その内容を職員会議で協議し、入居者本位での対応を行っている。家族の面会時や運営推進会議での意見等を積極的に運営に反映している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	法人代表者が地元で古くから民宿を営んでいたため、地域との関係は良好である。地域のお祭りやゴミゼロ運動への参加による交流を図っている。今後はさらに地域区長と連携をとり、老人クラブとの交流を持つことが期待される。

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自に“入居者各人がその人らしい暮らしができ、当グループホームが地域社会の中の一員として自立し、融合すること”を理念に掲げ、入居者の尊厳と事業所の自立性を重視している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を文書化し、ホーム内の掲示や職員会議で再認識する等、職員間での共有が図られている。職員は運営理念の実現に向け日々の介護場面で常に意識し、振り返りながら接することを心がけている。		
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人代表者が地元で古くから民宿を営んでいたため、地域との関係は良好である。地域のお祭りやゴミゼロ運動への参加による交流を図っている。今後はさらに地域区長との連携を図り老人クラブとの交流が期待される。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価を実施する意義をよく理解し、真摯に取り組んでいる。外部評価の結果は、運営推進会議や職員会議で協議され、具体的な改善活動を実施し、前回からの改善は顕著である。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、行政職員、地域区長、民生委員、交番警察官、入居者家族、ホーム関係者等を構成メンバーとし、4ヶ月に1回、定例的に入居者の状況や行事などの報告を行い、今後取り組んでいきたい事項や外部評価の結果等について協議を図り、サービスの向上に繋がるよう努めている。		今後は、会議の目的や運営方法を明確にし、計画的に3ヶ月に1回の会議の開催を実施できるよう体制の整備が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者との関係性は良好で、状況報告書提出の際などに、制度等の最新情報の入手や意見交換を行っている。また、地域包括支援センターや各入居者の保険担当者とも連携を深めるよう努力している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回、ホーム便りを作成し、入居者個人別の暮らしぶりの写真や最近の様子等を掲載した情報提供を行っている。また合わせて職員の異動については変化が生じた際に適宜、電話等で連絡を行っている。金銭管理については「預かり金管理規程」に基づき的確な管理が行われている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口をホームの内部と外部に設置し、重要事項説明書にその旨を明記している。また、事業所内にも合わせて掲示し、周知を図っている。寄せられた苦情や不安へは、その内容を職員会議で協議し、入居者本位での対応を行っている。家族の面会時や運営推進会議での意見等を積極的に運営に反映している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1ユニットのため異動はない。離職はとて少ないが代わる場合は個々の状況に合わせて職員会議で対応を協議し、入居者へのダメージが最小限となるよう努めている。また、離職しない様に、職員研修やホーム内の環境整備等、職員満足の向上に努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画に基づき、職種や職員個々の経験に適した研修への実施が行われている。しかし外部研修への参加が不十分であったと認識し、来年度は計画的に改善する意向である。職場内研修では入居者のADL低下、重度化に合わせて働きながら適時実施されている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	匝瑳市高齢者支援事業、グループホーム連絡会の交流会などへの参加を通じて、交流を図っている。また、近隣の老人福祉施設や居宅介護支援事業所などと連絡や相互訪問を通じ、サービスの質を向上させる取り組みを行っている。		近隣の同業者や関連事業所との交流を深め、気軽に相談できる、また相互研鑽できるような関係性の構築が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居者や家族と相談しながらホームの見学、体験入居や一時帰宅などを行い、徐々に馴染めるよう入居者の状況やペースに合わせた配慮を行っている。また、必要に応じて家族への入居間もない間の面会を依頼する場合もある。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>食事の後片付け、家庭菜園、掃除など、日常生活全般に亘って知恵を借りている。生活の中で入居者が望む役割を担ってもらい、ともに無理なく支えあう関係性を築いている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者一人ひとりの希望の把握に努めている。意思の疎通が難しい場合は、日々の表情や仕草などから意向を読み取るようにしている。また家族の面会時や電話等で話を聞くなどの工夫もしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者の認知症やADL低下などをマイナスに捉えず、今できること、わかることなどに着目し、目標指向型の介護計画を作成している。作成の際は、全職員と家族、医療職者ら、関係者の意見を反映し、変化があれば随時話し合いを行って、状況に即した計画にしている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画書は3ヶ月に1回の定期見直しを行う。それ以外にも、ケアカンファレンス等で、入居者の日々の変化を随時話し合い、現状に合った介護を行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の希望に応じて、買い物、通院、自宅を見に行くなどの付添いを行っている。地域の養護老人ホームに、認知症高齢者グループホームについてレクチャーに行ったこともある。認知症介護に関する相談電話なども、職員が話を聞いて、応えている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者はそれぞれ、職員の通院支援を受け、かかりつけ医に診て貰っている。気軽に相談できる認知症専門医も確保している。夜間の急変等は、旭中央病院の救急にかかっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	数名の入居者については、終末期の意向確認ができており、家族も承諾している。その他の入居者は、入院等をきっかけに話し合いを持っている。原則として、常時の医療行為が必要になった場合は、退居ということになっている。		すべての入居者・家族について、終末期の意向確認があらかじめ出来ていると、いざというとき落ち着いたケアができると思われる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録や写真など、個人情報の取扱いには職員同士で確認し合い、十分注意している。羞恥心への配慮、尊厳の保持にも、日常的に気を配っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	午前中は皆で体操をしたり散歩をして、体力づくりをしている。その後は、習い事の習字をする人、塗り絵などで遊ぶ人、のんびりとお茶を飲んだり居室で休む人など、個々のペースで生活している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員・入居者皆で準備し、共に食卓を囲んでいる。献立は入居者のリクエストを取入れ、ホームの畑で取れた野菜なども調理している。テーブルには仲良しの入居者同士で座るようにし、音楽を流して楽しい雰囲気をかもし出している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夕方4時ごろから6時くらいまでの間に入浴している。順番は毎回くじ引きで決め、公平性を図っている。冬は二日おき、夏は一日おきに湯船に入る。しかしシャワーは随時、必要に応じて利用することができる。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割や楽しみごとは入居者個々に持っている。しかしながら最近では、入居者の高齢化に伴う身体機能の低下などが顕著なため、見直しを図っているところである。知らず知らずのうちに役割が負担となっていないよう、職員は気を配っている。		これまで出来ていたことが、年月を経るとともに難しくなり、ストレスになっている場合もあり得るので、役割や趣味、レクリエーションなどは、随時の見直しが必要と思われる。
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、入居者全員で散歩にでるのが日課となっている。それ以外にも、買い物等に、職員と一緒に出かけている。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵はかけないようにしている。しかしながら、時間帯や職員の人数によっては、入居者が外に出たいという場合に、対応できないことがある。		せっかく玄関を開放していても、職員の都合で外に出られないのでは、入居者にとってストレスになると思われる。外に行きたいという入居者への今後の対応方法が期待される。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練を行っている。近隣住民もいざというときは駆けつけてくれることになっている。ホームのオーナーの自宅がすぐ隣にあるため、夜間でもすぐに手助けにすることができる。防災頭巾を座布団代わりにして、リビングの入居者個々の椅子に敷いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分摂取量は記録をつけている。排泄や体重のチェックもしており、食事が身体にあっているか、多角的に確認をとっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は毎日掃除がなされており、清潔で適温が保たれている。リビングは居心地の良い家庭の居間そのもので、入居者は個々にくつろいでいる様子が見受けられた。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	冬場の居室には、乾燥防止のため濡れたタオルをかけるようにしている。季節に応じて職員がエアコンを調整したり、布団干しやシーツの洗濯をこまめにして、快適な居室になるように配慮している。居室は持ち込み自由で、自分らしい空間になるよう支援している。		